

こだわりの野菜づくりと

消費者交流による幅広い農業をめざす

(千歳市 ^{あしだ} 蘆田 裕介 氏)

1 経営の概要

有機栽培経験年数	経営規模(うち有機・特別栽培)(ha)	労働力(人)
9 年	12.0 (0.6・11.4)	2

作物名	作付面積(ha)		有機・特別栽培生産量 (10a 当り)
	(うち有機・特別栽培)		
かぼちゃ	0.6	(有機栽培:0.6)	1,000kg
だいこん	9.5	(特別栽培:9.5)	3,700kg
スイートコーン	1.0	(特別栽培:1.0)	1,800本
しいたけ	0.26		
その他(かぶ等)	0.9	(特別栽培:0.9)	
緑肥(エンバク)	3.3		

2 有機農業取組の経緯等

(1) 取り組みの動機、経過等

- ・大学生の頃に有機農業に興味を持ち、平成7年卒業と同時に恵庭市の(有)余湖農園(北海道指導農業士)で研修を始めた。
- ・研修期間は5年間で、主に露地野菜(だいこん、にんじん、ほうれんそう、スイートコーン等)の特別栽培(減農薬・無化学肥料)に取り組む。
- ・研修終了後の平成12年、千歳市釜加地区で農地8.6haの賃貸契約を結び新規就農。
- ・現在は、露地野菜(だいこん、かぼちゃ、スイートコーン等)を中心に有機栽培と特別栽培(減農薬・無化学肥料)に取り組んでいる。
- ・平成16年に有機JASの認定を取得。
- ・今年から新規に、しいたけ栽培(ハウス)に挑戦している。(有機栽培については検討中)

(2) 取り組みの考え方

- ・消費者に信頼され、安全・安心な農産物を提供したい。
- ・品質の確保と収量の安定化をめざした生産技術の確立を図る。

3 有機栽培管理技術等の特徴

[栽培管理の概要]

かぼちゃ(有機栽培)

作型	品種	は種期	定植期	収穫期	保温条件
露地	伯爵	5月下旬	6月中旬	9月中旬	マルチ

だいこん（特別栽培）

作型	品種	は種期	収穫期	保温条件
春まき	YR 桜坂 夢誉	4月下旬～5月中旬	6月下旬～7月中旬	マルチ トンネル
初夏まき	夏つかさ旬 夏つかさ	6月上旬～下旬	8月上旬～下旬	マルチ
晩夏まき	とみなが 冬じまん きれい根	8月中旬	10月中旬～下旬	露地

スイートコーン（特別栽培）

作型	品種	は種期	収穫期	保温条件
露地栽培	めぐみ 86	4月下旬～5月中旬 5月下旬～6月上旬	8月中旬～9月中旬	トンネル マルチ

[栽培管理技術等のポイント等]

(1)土づくり

かぼちゃ（有機栽培）

有機質肥料			施肥要素量(kg/10a)		
肥料名	施用量(kg/10a)	施用方法	窒素	リン酸	カリ
発酵鶏ふん「バイオミネラル」	100	全面施用	3.4	7.8	3.5
腐熟促進資材「酵素でくさる」	45				

だいこん（特別栽培）

有機質肥料			施肥要素量(kg/10a)		
肥料名	施用量(kg/10a)	施用方法	窒素	リン酸	カリ
発酵鶏ふん「バイオミネラル」	20	全面施用	3.6	3.0	4.9
米ぬか	20				
なたね油かす	20				
腐熟促進資材「酵素でくさる」	45				

スイートコーン（特別栽培）

有機質肥料			施肥要素量(kg/10a)		
肥料名	施用量(kg/10a)	施用方法	窒素	リン酸	カリ
発酵鶏ふん「バイオミネラル」	180	全面施用	5.0	12.6	5.9
腐熟促進資材「酵素でくさる」	45				

- ・緑肥作物の導入～地力増進のため、えん麦を組み入れた輪作を実施。

(2)病害虫防除

作物名	病害虫名	防除対策
かぼちゃ	うどんこ病	多大な被害が予測される場合は、硫黄粉剤を1回(3kg/10a)散布
だいこん	軟腐病	薬剤散布～1回：バイオキーパー水和剤、1,000倍
	キスジトビハムシ	播溝施用(は種時)～フォース粒剤、4kg/10a
	タネバエ	間引き後の残渣物を回収し、発生を軽減
	ネグサレセンチュウ	対抗作物としてえん麦野生種(ハイオーツ)を栽培
スイートコーン	アブラムシ	薬剤散布～1回：アドマイヤーフロアブル、4,000倍
	アワノメイガ	薬剤散布～1回：エルサン乳剤、1,000倍

(3)雑草対策

<p><問題となる雑草></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネ科雑草～ヒエ等 ・広葉雑草～シロザ、ツユクサ、キク科雑草等
<p><除草の方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手取り～2回程度(各作物) ・ロータリー耕～2回(かぼちゃ) ・手押し式耕耘機(テイラー)による畝間除草～1回(だいこん・スイートコーン)
<p><抑草対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫後に緑肥作物(えん麦)を栽培し、雑草の発生を抑える。

4 生産物の出荷・販売

- ・出荷・販売先

販売先	作物名
JA道央	だいこん
コープさっぽろ	だいこん、スイートコーン
青果仲卸等	かぼちゃ、だいこん
びっくりドンキー(株)	だいこん(サラダ用)



写真1 JAに出荷されるだいこん

- ・品種選定～販売先または、JA生産部会で決定。
- ・出荷内容

作物名	出荷(時期・方法)	規格
かぼちゃ	時期：10月下旬～11月中旬 方法：10kg入りダンボール	区分：4～8玉/10kg入
だいこん	時期：6月下旬～10月下旬 方法：10kg入りダンボール、コンテナ	区分～M、L、2L、3L
スイートコーン	時期：8月中旬～9月中旬 方法：ギフト箱(10本入) コンテナ	製品：400g以上/本 直売用等：400g以下/本

- ・価格～販売先との契約による。

5 消費者との交流の取組

【コープさっぽろとの連携】

- ・「親子交流会」を開催し、農作業体験(収穫・選別)や料理交流会を通して、都市の消費者との交流・情報交換などを行っている。

【新規参入者グループ「うまうま商店」による食育活動】

- ・千歳市、恵庭市など近郊の新規就農者で組織するグループ「うまうま商店」に参加し、地元の消費者との交流(収穫体験、料理イベント等)による食育活動を実施している。
- ・札幌市で開催される「こだわり農産市」や石狩支庁主催の「ふらっとフラ市」など、生産者直売イベントに参加し、都市の消費者と交流を深めている。(年7～8回程度開催)



写真2 「親子交流会」だいこんの収穫体験 写真3 「うまうま商店」主催の消費者交流会



写真4 札幌市での「こだわり農産市」に出店 写真5 地元農産物を使った料理交流会

6 生産者のつながり、関係機関・団体等との関わり

【新規参入者グループ「うまうま商店」での活動】

- ・千歳市、恵庭市、北広島市など近郊の新規就農者 10 名と「こだわりの農産物」を販売するグループ「うまうま商店」を平成 16 年に設立した。
- ・活動内容～生産者直売イベントへの参加、都市の消費者との交流。
学習会(肥料・農薬・栽培技術等)の開催、視察研修・情報交換会の実施

【関係機関との連携】

- ・農業イベント等への参加を通じて、近隣の新規就農者との仲間づくりを積極的に進めている。
- ・JA 青年部役員のほか、作物部会や自治会活動に参加している。
- ・食育活動（農作業体験・料理交流会等）の企画・実施に際し、普及センターと連携して多様な活動を展開している。

7 今後の課題と方向

- ・土づくりと栽培技術の確立による生産コストの低減と製品歩留りの向上を目指す。
- ・地域の気候や土壌条件に適した新規作物の栽培に取り組む。
- ・地元及び都市消費者との多様な交流を行い、安心な農産物を提供する。

作成：石狩農業改良普及センター